

令和3年4月19日

令和3年度 学校経営計画

大田区立安方中学校
校長 佐藤 彰

国際化・情報化がすすむ現在の社会において、変化の激しい時代に柔軟に対応できる生徒の育成が求められている。本校はこれまで、キャリア教育について研究を深め、その成果を活かしてすべての教育活動を推進してきた。キャリア教育は、社会性や職業観、豊かな人間性を育成するために、様々な体験を通して必要な資質や能力を育成する教育である。今年度も、キャリア教育の視点を重視しながら、心と体を鍛えたくましく生き抜く生徒を育てていきたい。

令和3年度の安方中学校の教育活動は、「時代が変わっても変わらずに価値のあるもの」と「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」を適切に判断し、実践することを重点とする。

今年度の喫緊の課題として

(1) コロナの時代に即した教育活動の工夫

(2) 基礎学力の定着と向上

(3) 行事や部活動などの体験的学習の充実

をあげる。

生徒の安全を第一とし、感染症対策を十分に行った上で、様々な教育活動に果敢に挑戦していく。

また、ICT 機器の活用や対話的で深い学びを実践することで、生徒の学習意欲や学びに向かう力を高める工夫を行う。

さらに、豊かな体験活動を通して、まわりの人と力を合わせて努力する体験や成功体験を積み、自己有用感を高める。

上記の課題を解決する方策として、下記のことに取り組む。

① コロナ禍を機に、これまでふくれ上がってきた教育内容を見直し、真に必要な活動に精選する。また、教職員の働き方改革を推進する。

② 対面で実施するアナログな部分と、オンライン等のデジタルを組み合わせ、教育活動を展開する。

③ タブレット端末を最大限に活用し、効率的かつ質の高い授業を行う。

④ 言語活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的な学びにより、「聞く力」、「話す力」、「伝える力」を養う。

⑤ 体験学習や問題解決学習を多く取り入れ、「できた」、「わかった」という喜びを味わうことができる。

⑥ 体験的な活動を通して、人との関わりを多くもたせ、他者を思いやり、自分のよさや他者のよさを感じとれる心を育てる。

本校では、これまでの伝統を踏まえながら、生徒の自主性を高め自立を支援する学校づくりのため、以下の教育活動を推進していく。

1 教育目標

・学ぶ ・鍛える ・思いやる

2 めざす学校像、生徒像、教師像

学校は一人の人間の社会化を促し支援する場である。そのために、良き社会人としての知識や技能を習得する訓練の場として機能しなければならない。

「規律ある学校」体制のもと、基本的習慣としての「挨拶、身だしなみ、振る舞い」を重んじ、以下を掲げる。

(1) 学校像

豊かな人間性と未来を創造する力を育むために、キャリア教育の視点を生かし生徒自らが生き方を主体的に考え、正しく判断し実行できるように教職員・保護者・地域が協働して取り組んでいく学校を目指す。そのための重点を次のように設定する。

- 感染症予防対策を徹底し、生徒の安全を最優先とする
- 「主体的・対話的で深い学び」により生きる力を養う
- 体験的な活動を多く取り入れ、自己有用感や自己肯定感を高める
- 生徒の主体性と自治の力を高める
- 優しさや思いやりの心を涵養し、いじめをなくす
- あいさつを重んじ、豊かな感性を養う
- オリンピック・パラリンピック教育、ボランティア活動を充実させる

(2) 生徒像

- ①学ぶ ・主体的に学ぼうとする意欲と姿勢をもち、課題解決と自己実現に向けて真摯な気持ちで継続的に取り組む。
- ②鍛える ・「知」を鍛える
基礎学力の定着や学力向上への意欲と思考力、判断力、創造力、表現力を高める。
- ・「心」を鍛える
感動する心や豊かな感受性、忍耐力を育むとともに、自らを律する厳しさを養う。
- ・「体」を鍛える
常に健康管理に努め、感染症予防に対する意識を高める。
生涯にわたって体力や技能を向上させる意識を養う。

③思いやる

- ・ 道徳教育の充実を図ることで人権尊重の心を育て、自他を敬愛できる豊かな人間性を育てる。
- ・ いじめや差別を許さず、他者の痛みが理解できる感性を育てる。

(3) 教師像

①指導力を高める教師

- ・ 教科指導、生活・進路指導・道徳科等で高い目標を設定し、まわりと切磋琢磨してお互いに高め合いながら指導に努める。
- ・ 感性が豊かで、生徒の変化やつまずきに気付き、生徒の心に寄り添いながら対応策を講じ、迅速・丁寧な指導にあたる。

②創意工夫する教師

- ・ 授業等におけるタブレット端末の活用挑戦し、探究的な学習や深い学びを実践するためのツールとして使用できる。
- ・ 新しい変化や困難な問題にも自らすすんで柔軟に対応し、創意工夫しながら意欲的に取り組む。
- ・ 自身のワークライフバランスを意識し、心身ともに健康で職務を遂行できるように努める。

③信頼される教師

- ・ 生徒のために労を惜しまず、愛情をもって生徒指導にあたる。
- ・ 学校組織の一員としての自覚をもち、保護者・地域と連携し協働して教育活動を展開する。
- ・ 心身ともに健康で、教育公務員としての服務規律を遵守し、教師としての使命感をもって職務を遂行する。

3 学校経営上特に重点とすること

(1) 学力・体力の向上を目指して

- ①タブレット端末等の ICT 機器を活用して、わかる授業・参加する授業を目指して常に研鑽に励む。
- ②基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、思考力・判断力・創造力・表現力を育成する。
- ③学習課題をもち、自ら情報を集めたり考えたりしながら主体的に課題を解決させると同時に、体験的な活動を重視し指導にあたる。
- ④学習の遅れがちな生徒の実態を的確に把握し、少人数授業や朝学習・朝読書、補習教室などを充実させて学力向上を図る。
- ⑤給食指導、体力向上とスポーツを楽しむ態度、健康教育、食育の充実を図り、心身ともにバランスの取れた生徒を育成する。

(2) 生活指導の徹底

- ①日常の中で、あいさつがきちんとできる生徒を育成する。
- ②基本的な生活習慣を確立し、規律ある生活態度を身に付けさせる。また、社会生活におけるマナーの理解及び法を守る態度を育成する。
- ③生徒及び保護者との信頼関係を確立し、人権に配慮しながら生徒が自己肯定感や自尊感情を高められるように努める。また、体罰に依らない個々の生徒に向き合った生活指導を行う。
- ④生徒の心情や生徒相互の人間関係を的確に把握し、問題行動を未然に防ぐことができるよう、日頃から生徒観察に努める。
- ⑤不登校生徒が増加傾向にあることを踏まえ、スクールカウンセラーや支援員、外部諸機関と連携し、生徒の実態に合わせた対応をする。
- ⑥登校はできても教室に入れない生徒のために「登校支援室」を設け、教員や支援員による学習や行動の支援を行い、教室復帰を目指す。
- ⑦問題行動に対しては、生徒一人一人の理解を深め、保護者の願いや要望を把握し、厳しさと温かさ・教育相談的手法を重視し、全校的な指導体制のもとに指導の徹底を図る。
- ⑧学校内外での安全指導を徹底するとともに、非常災害時の安全確保のため、避難訓練、総合防災訓練、セーフティ教室等を実施する。
- ⑨事故発生時は、初期対応を確実にを行い、生徒及び保護者の心情に十分寄り添った対応を行う。

(3) 進路指導の充実

- ①キャリア教育の視点を活かし、全教育活動で生徒の生き方や職業観を考えさせ、卒業後の進路指導の在り方を模索し、生徒や保護者の求めに的確に応じた生き方指導を徹底する。
- ②働くことの意義と将来の生き方を考えさせ、自己の進路選択に生かせるように指導する。
- ③生徒の実態に合わせた、3年間の進路指導計画の作成・見直し・改善を図り、学年進行の発達段階に応じた進路・生徒指導の充実に努める。

(4) 特別支援教育の充実

- ①生徒の人格を尊重するとともに、教育的ニーズを把握し、合理的配慮を踏まえた支援を行う。
- ②特別支援コーディネーター及びスクールカウンセラーと連携し、校内委員会の組織力や機能性を生かした対応を行う。
- ③保護者、関係機関等と連携するとともに、「個別指導計画」・「教育支援計画」を適正に作成して支援を行う。

(5) 学び合い高め合う教師集団

- ①生徒の安全を第一に考え、感染症予防の方策を徹底するとともに、教育活動の内容等を柔軟に改善していくことができる。
- ②組織の一員としての自覚をもち、常に報告・連絡・相談を徹底する。
- ③問題が起きた時に一人で解決しようとせず、常に学年・分掌等で協力し、組織的な対応で解決を目指す。
- ④タブレット等の ICT 機器の活用に挑戦し、自分の指導の幅を広げる努力を継続していく。
- ⑤学校内外の研修に参加し、専門職としての自覚をもち、常に指導力向上のための自己啓発に努める。
- ⑥保護者会、学校公開、個人面談、各種行事、学級・学年だより、ホームページ等を通して、学校の方針や教育内容を発信し、保護者や地域の協力のもとに学校教育を推進し、信頼される学校をつくる。
- ⑦生徒が学ぶ場所としての校舎等の施設が、安全かつ清潔で、学習しやすく心が潤う場とするための美化活動を推進し、学習環境の整備に努める。
- ⑧生徒の安全確保については、常に万全を期する。事故が発生した場合には、初期対応を重視し、迅速・丁寧かつ慎重に組織的に対応する。
- ⑨校内の OJT 体制を見直し、後輩を育てる意識と雰囲気醸成し、共に学び合う教員集団を組織する。
- ⑩教育公務員としての自覚をもち、体罰、個人情報紛失、セクハラ・わいせつ行為、交通事故等を起こさぬよう、サービスの厳正に努める。
- ⑪常に心身の健康を保てるように意識し、働き方改革を踏まえて「休暇の取りやすい職場」を作っていく。